

業務改善の実施状況報告

組織名	大臣官房情報評価課	連絡先	03(3501)3778
所管する業務の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農林水産省の所掌事務に係る情報の収集、整理、分析及び提供に関する総合的な企画及び立案並びに推進に関すること。 ・ 広報に関すること。 ・ 農林水産省の所掌事務に関する政策の評価に関すること。 ・ 農林水産省の行政の考査に関すること。 ・ 国立国会図書館支部農林水産省図書館に関すること。 		

1. 職員の基本的な心構え・行動について	
・ これまでの取組実績及び現在実施している取組	・ 今後の課題とその改善策
<p>① 日々の業務の中からできることを改善するという「省のビジョン・ステートメント」を、課員がいつでも見られるように室内に「省のビジョン・ステートメント」を掲示するとともに、課員に対し身分証明書の裏に「省のビジョン・ステートメント」を挟み携行して貰うこととした。</p> <p>② 課員に政策外交員の資料を読むよう定期的に周知した。</p>	<p>① 引き続き「省のビジョン・ステートメント」の室内掲示や課員の携行について指導したい。</p> <p>② 今後も政策外交員の資料を読むよう定期的に周知したい。</p>

2. 国民視点に立った業務の遂行について	
・ これまでの取組実績及び現在実施している取組	・ 今後の課題とその改善策
<p>① ホームページで提供している情報が国民に役立ち、よりわかりやすいものとなるよう、トップページの「注目情報」やバナーについて、アクセス数や報道状況に応じて柔軟に見直しを行った。</p>	<p>① 今後も国民視点に立った業務の遂行に努めるため、引き続き見直しを行っていきたい。</p>

また、戸別所得補償制度に関する情報については、ヘッダ下中央に別途バナーを掲載し、利用者の目に留まるよう工夫した。

- | | |
|--|-------------------------------|
| <p>② 農林水産省からの情報発信におけるイメージを統一し、信頼感の向上に繋げていくため策定された「ビジュアル・アイデンティティ・ガイドライン」を全省的に遵守するよう各部局庁等を指導した。</p> | <p>② 引き続き遵守の徹底を図りたい。</p> |
| <p>③ 外部の方から提供していただいた違法行為、国民の安全を脅かすおそれのある行為等に関する情報（疑義情報）は、対応マニュアルに沿って適切に管理している。
なお、平成21年10月から12月を中心にしてシステムの流れと事例をポンチ絵にまとめて職員に周知した。</p> | <p>③ 今後も工夫しながら職員に周知徹底したい。</p> |
| <p>④ 「食料・農業・農村白書」の作成にあたっては、「です・ます」調に表現を改めるとともに、年号については和暦と西暦を併記するなど、国民目線に立って見直しを行った。</p> | <p>④ 今後も国民目線に立って見直しを図りたい。</p> |
| <p>⑤ 食の安全を脅かす事案が発生した場合、直接担当する部署ではなくても、農林水産省の職員として基礎的な知識を持ち合わせておく必要がある。そこで、BSEや事故米の報告書を室内4箇所に備付け、課員がいつでも見られるようにした。また、課員は職員掲示板やホームページによって必要な情報を収集するとともに、当課に関連する新聞情報等は課内で共有するようにしている。</p> | <p>⑤ 今後も引き続き取り組んでいきたい。</p> |

3. 業務を適切かつ円滑に遂行するための職場環境づくりについて

・これまでの取組実績及び現在実施している取組

- ① 課内連絡会議、班会議等において、各担当業務の進捗状況や課題等に関する打合せを行い、業務の適切かつ円滑化を図った。
- ② 今年、4月以降、口蹄疫に関するプレスリリースの対応のため、特定の班で休日出勤が必要であったので、課内の

・今後の課題とその改善策

- ① 引き続き業務の適切かつ円滑化を図りたい。
- ② 今後も、業務平準化の取組を図りたい。

各班でローテーションを組んで応援体制を採るなど、業務の平準化に努めた。

4. その他の農林水産省改革を進めるための取組について

・これまでの取組実績及び現在実施している取組

- ① 電話の応対等のマニュアルを作成し、室内の壁に貼るとともに全課員にメール等で周知徹底した。
- ② 平成 22 年 3 月に策定された「戦略的広報における広告等の取扱いについて」に基づき、各部署が予定している広告内容を確認した際、生産者等を訴求対象とした広告であっても消費者目線で見ているか確認した。
- ③ 国民から当課に寄せられた意見、要望及び苦情に適切に対応するため、今年 2 月に手順を策定した。
- ④ 「食料・農業・農村白書」の説明会等における質問や「農業・食品産業の経済計算」、「農林水産業及び関連産業を中心とした産業連関表」への質問等は、分かりやすいよう留意しながら適切に対応した。
- ⑤ ホームページの掲載内容と国民ニーズにずれが生じないように、CMS 研修等を数回開催して職員の意識の向上を図った。また、ホームページの政策評価コーナーを見やすくするよう改善した。
- ⑥ 視覚障害者の方々への「食料・農業・農村白書」の音声テープ等の配布にあたっては、活用状況等を把握するアンケート調査を実施し、ニーズに応じて配布先、配布数量等を決定した。
- ⑦ ヒヤリ・ハット事例をよく読み、自分の業務に置き換えて、業務の見直し等に役立てた。

・今後の課題とその改善策

- ① 今後も、課員に定期的に周知したい。
- ② 今後も、引き続き実施したい。
- ③ 課員に定期的に周知徹底したい。
- ④ 今後も引き続き適切に対応したい。
- ⑤ 今後も、必要な見直しを行っていききたい。
- ⑥ 今後も引き続き、ニーズを尊重した対応を行っていききたい。
- ⑦ 今後も、課員へ定期的に周知したい。